

愛は南から—



写真左からシブラさん（インド）、倉本さん、ガブリエルさん（ナイジェリア）

うみらいく愛南で始まる交流 日本語を教えて外国人を応援

リエルさんにボランティア
アで日本語を教えていま
す。

自分ができていることを

「そうです。ガブリエルさん、
goodです！」

ハリのある声で正解した回答
を褒めているのは、日本語教師
の倉本栄子さん。福浦に住む倉
本さんは、2月からうみらいく
愛南で毎日1時間程度、愛媛大
学南予水産研究センターに在籍
する研究員のシブラさんとガブ

リエルさんにもボランティア
アで日本語を教えていま
す。
「人のお世話するのが
好きなんです」そう話す
倉本さんは、これまでも
ALT（外国語指導）た
ちとの交流などを通じて、日本
で暮らす外国人
を支援してきました。「よ
その国にやってきて、さ
みしい、心細いという
ALTもいました。知らない
国で生活するのは本当に大変、
お世話というより友達として
家族としておつき合ひしてい
ます」。

いますごく楽しい

日本語教師をめざして勉強し
ていたこともある倉本さん。「生
まれつき片耳が不自由なことも
あつて大勢の生徒に教えるのは
不安がありました。だから試験
は受けませんでした。あきらめ
ていたときに、2人に教えてほ



しいという話をいただいて。勉
強していたことが役に立って、
いますごく楽しいです」。

倉本さんが教える前は、あい
さつ程度しかできなかったと
いうシブラさんとガブリエルさ
ん。今はひらがな、かたかなが
読めて簡単な会話ができるよう
になりました。
「倉本さんが先生ですごくう
れしい」シブラさんからもらつ
たメールは倉本さんの大きなほ
げみになっています。「がんば
る人を応援したい」と話す倉本
さん。うみらいく愛南で日本語
を通じた交流が始まっていま
す。